

# 子どもの性別が親の政策支持や価値観に与える影響

湯川志保<sup>1</sup>

## 要旨

本研究は、東京大学社会科学研究所が実施する「東大社研・若年パネル調査 (JLPS-Y)」と「東大社研・壮年パネル調査 (JLPS-M)」<sup>2</sup>の 2007 年から 2013 年のデータを用いて、子どもの性別が親の政策支持や価値観に与える影響について分析を行った。分析の主な結果は以下のとおりである。娘のみを持つ父親は両方の性別を持つ親や子どものいない男性よりも、日本の防衛力や日米安保の強化を支持することが明らかになった。一方、息子を持つ母親は、両方の性別の子どもを持つ母親や子どものいない女性よりも雇用政策や学歴といった将来の職や雇用に関わる項目を重要視することが確認された。さらに、共働きの有無別の推定結果からは、共働き世帯の父親で娘のみを持つ親は共働き世帯の両方の性別の子どもを持つ父親や子どものいない男性よりも、性別役割意識に否定的な考えを有意にもつものに対して、共働き世帯ではない娘のみを持つ父親についてはこのような傾向は観察されないことや、共働き世帯の母親で娘のみを持つ親は、共働き世帯の両方の性別の子どもを持つ母親や子どものいない女性よりも、女性の自立を支持する傾向にある一方で、共働き世帯ではない娘のみを持つ母親についてはこのような影響は観察されないことが確認された。

---

<sup>1</sup> 帝京大学経済学部講師 s\_yukawa@main.teikyo-u.ac.jp 本研究は、科学研究助成事業若手研究 B (課題番号 15K17056) の助成を受けました。

<sup>2</sup> 本研究をおこなうにあたり、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター SSJ データアーカイブから「東大社研・若年パネル調査 (JLPS-Y) wave1-7, 2007-2013 と東大社研・壮年パネル調査 (JLPS-M) wave1-7, 2007-2013 (東京大学社会科学研究所パネル調査プロジェクト)」の個票データの提供を受けました。記して感謝致します。